

都ぞ弥生

(明治四十五年寮歌)

横山芳介君 作歌
赤木顕次君 作曲

三

都ぞ弥生の雲紫に
花の香漂ふ宴遊の筵
尽きせぬ奢に濃き紅や
その春暮れては移らふ色の
夢こそ一時青き繁みに
燃えなん我胸想ひを載せて
星影冴かに光れる北を
人の世の清き国ぞとあこがれぬ

四

豊かに稔れる石狩の野に
雁遙々沈みてゆけば
羊群声なく牧舎に帰り
手稻の嶺黄昏こめぬ
雄々しく聳ゆる楡の梢
打振る野分に破壊の葉音の
さやめく蕨に久遠の光り
おごそかに北極星を仰ぐ哉

寒月懸れる針葉樹林
樫の音凍りて物皆寒く
野もせに乱る清白の雪
沈黙の暁霏々として舞ふ
ああその朔風颯々として
荒ぶる吹雪の逆巻くを見よ
ああその蒼空梢聯ねて
樹氷咲く壮麗の地をここに見よ

五

朝雲流れて金色に照り
平原果てなき東の際
連なる山脈玲瓏として
今しも輝く紫紺の雪に
自然の藝術を懐みつ
高鳴る血潮のほとばしりもて
貴とき野心の訓へ培い
榮え行く我等が寮を誇らずや